

はじめに

一月一七日の阪神・淡路大震災は、全く予想だにしていなかった出来事でした。私の住んでいる豊中も大変な揺れで、一瞬「自宅は崩壊するかも」との感じでした。

時間が経過する毎に、阪神地域の災害の状況がテレビに写し出され、大震災であることが判明していったのです。

連合大阪の三役会が一八日には召集され、連合としての救援活動の開始と並行して、日教組としての諸々の救援活動の取り組みも開始され、大阪教組書記局は震災対策に全力を傾ける体制に入っていたのです。

阪神地域の避難所となっている学校と、豊中市内の学校へのボランティア活動への派遣、大阪府下に転入してくる園児・児童・生徒への対応、さらには兵庫県教組への緊急援助物資の搬送などなど、今まで予想もしなかった取り組みの連続でした。

大阪教組としては府下の各単組・支部をはじめ、多くの組合員の協力を得て出来ることは可能な限りやりきろうと、取り組んだつもりであります。

大阪も被災地でありましたが、兵庫のすぐ隣という置かれた状況から多くの経験と教訓を得ました。これらの取り組みを可能な限り記録に残しておくことも責務ではないかと考え、この記録集を発刊した次第です。

二度とこのような大震災は御免です。最後になりましたが、亡くなられた方々の御冥福を御祈りし、被災された方々の一刻も早い立ち上がりを心から祈念致します。